



山陽スピリット ニュース No.13

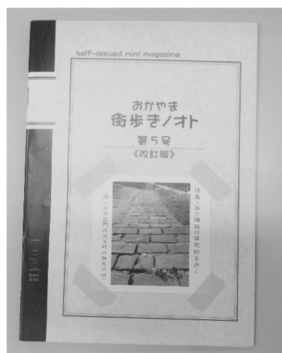
2018(平成30)年10月18日

発行：学校法人 山陽学園 広報・山陽スピリット推進室

歩いて知る門田界隈の歴史

山陽女子中学校・高等学校
学校司書 田中 麻依子

今年6月22日（金）、山陽女子高校1年総合進学コースを対象に、福田忍さんによる門田文化をテーマにした講演が行われました。福田さんは街歩きで得た情報を小冊子「おかやま街歩きノオト」にまとめ、発行されているフリーライターです。現在までに21冊が製作され、第5号では門田界隈を特集されました。その中には「スウェーデン坂～宣教師の足跡～」という項目があります。



『おかやま街歩きノオト
第5号（改訂版）』
2016.3発行

東山電停から南へ歩き、県立岡山東商業高校を抜けた左側手に「スウェーデン坂」があります。1950年代から1960年代にスウェーデン人の宣教師が住んでいたことから、その名が付けられました。

さて、その項目は、福田さんが知り合いから「スウェーデン坂に注目に値する古い洋館がある」と聞いたことから始まります。しかし、洋館は見当たりません。坂の下、東商業高校の南側にある「岡山聖約キリスト教会」で伺うと、すでに洋館は取り壊されていたのです。

洋館は、スウェーデン聖約教会のスウェーデン人が来日した際に活動の拠点として建てた「宣教師館」でした。宣教師館はかなり急な坂の上にあるため、信者が集うには不便と考えたのか、坂の下に建てたのがこの岡山聖約キリスト教会でした。福田さんはここで知り合いから、取り壊された洋館が「ヴォーリズっぽい建物」だと言われたことを尋ねますが、

牧師は「そういう話は聞いていない」と答えます。しかし、実はこの岡山聖約キリスト教会がヴォーリズ的设计なのかもしれないと明かしてくれたのです。



岡山聖約キリスト教会

ウィリアム・メレル・ヴォーリズ（1880～1964）は、キリスト教伝道者として来日したアメリカ人です。彼は1905（明治38）年に滋賀県の高校の英語教師となり、1908（明治41）年からは「ヴォーリズ建築事務所」を設立し、学校、病院、教会など多くの建築に関与しました。その数は第二次世界大戦までに1000を超えたとも言われていますが、多くは戦争で焼失し、岡山には残っていないだろうと思われていました。

岡山聖約キリスト教会は1959（昭和34）年に建てられました。設計をヴォーリズが担当し、施工は地元業者が行ったと言われています。ヴォーリズが関与した建築物は重要文化財に登録されているケースが多く、また現在では保存活動も行われていますが、岡山聖約キリスト教会は比較的新しい建物なので、文化財として注目されることもなかったそうです。当時の資料は残っておらず確証はありませんが、門田界隈にその可能性を残した建物があるのは誇らしいことです。

逆境に負けない女性 満喜子

ヴォーリズは、建築家としてのみならず、メンソレータム（現メンタム）で知られる製薬会社や医療福祉、教育などキリスト教の主義に基づく様々な事業を手掛けました。そのうち、教育分野においては、妻が中心となって大きな発展を遂げます。



満喜子とヴォーリズ

※写真は『W.メレル・ヴォーリズ伝』（2014.4発行）より転載

ヴォーリズの妻・一柳満喜子（ひとつやなぎまきこ/1884～1969）は、NHK連続テレビ小説「あさが来た」の主人公のモデルとして知名度が高まった広岡浅子と親戚関係にあります。

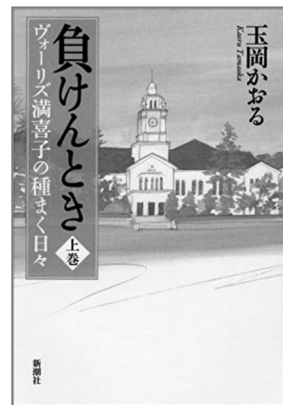
広岡浅子は日本初の女子大である日本女子大学設立への資金援助を行いました。依頼に来たのは梅花女学校（上代淑先生の母校）の校長であった成瀬仁蔵です。浅子は成瀬が置いていった彼の自著『女子教育』に感動し、1910（明治43）年には山陽学園を訪れ、講演を行いました。

浅子の影響を受けた満喜子はヴォーリズ学園の前身にあたる幼稚園「清友園」を開きます。これは、親が忙しく、日中面倒を見ることのできない子供たちに健全な遊び場を提供する目的で始められました。満喜子と浅子には、教育事業に関わり、女性の社会進出に力を注ぐなど多くの共通点が見られます。

満喜子は1951（昭和26）年に、幼稚園から高等学校までを統合した総合学園「学校法人近江兄弟社学園」の学園長に就任し、教育事業にその生涯を捧げました。

満喜子の奮闘する姿は、小説『負けんとき～ヴォーリズ満喜子の種まく日々』（上下巻、玉岡かおる著、新潮社）にも描かれています。幼少時代に母を亡くし、ひとりきりで渡米、猛反対を受けたヴォーリズとの結婚、逆境の中での幼児教育……封建的な時代の中で自分の生きる道を切り拓いた満喜子の周りにはいつも手本となる「戦う女性」がいました。

浅子は満喜子に言います。「おマキはん、負けんとき」「何かに勝てというのではない、負けるな、そしてあきらめるな」と。



門田界隈に根付く教育と想い

満喜子と浅子には共通点がもうひとつあります。1936（昭和11）年、満喜子もまた、山陽学園に来校し、講演しているのです。その内容は残っておらず、どのような経緯があったかは分かりませんが、上代淑先生が彼女を招いたのは、満喜子の生きる姿が淑先生の目指す教育像とリンクしていたからだろうと考えられます。

満喜子、浅子、そして淑先生も、逆風が吹く中で種を蒔き、花を咲かせた人物です。整った環境で行うよりずっと大変ですが、あきらめない姿勢が実を結んだのです。

132年の歴史には私たちを鼓舞するメッセージが隠されています。創立を祝うこの機会に門田界隈を散策してみてもはいかがでしょうか。

[参考資料] ※文中にあげた資料は除く

- ・山陽学園70年史
- ・近江兄弟社グループHP「W.M.ヴォーリズライブラリ」<http://vories.com/hitobito/01.php>
- ・大同生命HP「大同生命の源流～加島屋と広岡浅子～」<http://kajimaya-asako.daido-life.co.jp/>

[情報提供]

- ・岡山聖約キリスト教会 川口達也牧師